

# 競 技 注 意 事 項

## 1. 競技規則について

本大会は 2020 年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会の申し合わせ事項によって実施する。

## 2. 練習場及び練習について

練習は、補助競技場および本競技場の許可された場所を使用すること。その際マーシャルの指示に従うこと。補助競技場での投擲練習については、砲丸投のみ指定されたピットで行うことを認める。その他の投擲種目は危険防止のため禁止とする。

補助競技場での練習は、1~3 レーンは周回 4~6 レーンは直線(スタート) 7,8 レーンはハードルとする。

## 3. 招集について

### (1) 招集方法

(ア) 競技者は指定された時間までに 1 次点呼 (○付けと腰ナンバーの受け取り) を行い、その後、各競技開始場所に直接集合する。

(イ) 1 次点呼 (○付け) を行わない、または、指定された時間に競技開始場所にいなかった競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。

(ウ) 代理人による招集最終確認は原則として認めない。

(2) 1 次点呼 (○付け) 場所は、競技場第 1 ゲート付近 (100m スタート付近) に設ける。

(3) 1 次点呼 (○付け) 終了時刻、及び現地集合時刻はプログラム記載の競技日程の通りとする。

## 4. ナンバーカードについて

(1) 全ての競技者はユニフォームの胸・背に確実に付ける。跳躍競技の競技者は、胸又は背のどちらかに付けるだけでよい。

(2) トラック競技に出場する競技者は、出発地点で競技者係より腰ナンバーカードを受け取り、短パンの右腰や後ろに付ける。(800m まではシール式、1500m 以上は競技者係で貸し出す)

## 5. 競技の抽選及び番組編成について(レーン順、試技順)

(1) 800m より短いトラック競技の予選は競技運営上 1~9 レーンを使用する。レーン順・フィールド競技の試技順は、プログラムに記載した順による。

(2) トラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たとき (以下同タイム者という) は、下記の方法で決定する。

①100m・200m・400m・100mH・110mH・400mH・4×100mR 競技において次のラウンドへの進出者を決める場合、写真判定員主任が 0.001 秒単位の実時間を判定して出場者を判定する。それでも同成績者がありレーンが不足する場合は、同成績者または代理人によって抽選する。なお、アナウンス後 15 分を経過しても当該競技者あるいは代理人が大会総務に来なかった場合は、主催者が代行する。

②800m 以上の競技において、同タイム者は、次のラウンドに進むことができる。

## 6. 競技について

(1) 競技運営上、競技日程及びピット・短距離走の走路をバックストレートフィニッシュに変更することがある。その際、招集開始時刻の 1 時間前には放送を通じて連絡を行う。

(2) 短距離走のフィニッシュ後は、競技者の安全のために自分のレーン (曲走路) に沿って走り終わること。

(3) スタートの合図は英語で行い、各レースでの不正スタートをした競技者は 1 回で失格とする。

(4) リレーオーダー用紙は、予選・決勝とも第 1 組招集終了時間の 1 時間前までに競技者係に提出する。

(5) トラック競技では予選上位 16 位までの記録で決勝へ進出する種目もある。その際、9 位から 16 位を B 決勝として実施する。各種目 B 決勝を先に行い A 決勝を後に行う。表彰は A 決勝出場者からとする。

(6) 5000m の 1 組目は、男女同時スタートとする。

(7) 5000mW は、男女同時スタートとし、競技運営上、男子 30 分、女子 35 分以内に 4600m を通過出来なかった者は、競技を中止させ、失格とする。

(8) 棒高跳の競技者は、自分の希望する支柱の位置を所定の用紙に記載し、跳躍審判員に届け出る。

- (9) フィールド内での投てきおよび跳躍の練習は、必ず審判員の指示に従う。競技中フィールド内での練習は絶対に行わないこと。
- (10) 2種目同時に出場する競技者は、当該競技審判主任の判断により、フィールド競技について試技順を変更することができる。試技順を変更しても試技時間に間に合わなかった場合は、「パス扱い」となる。
- (11) 競技結果や番組編成は掲示しない。大型映像およびアスリートランキングにて確認すること。

## 7.フィールド競技

- (1) 男子走幅跳については、予選を行う。予選通過記録は、下記の通りとする。

男子走幅跳 6m80

- (2) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種目	練習	1	2	3	4	5	
走高跳男子	1m65	1m70	1m75	1m80	1m85	—	1m85以降 3cm 刻み
走高跳女子	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	—	1m55以降 3cm 刻み
棒高跳男子	3m00	3m20	3m40	3m60	3m80	4m00	以降 10cm 刻み
棒高跳女子	2m00	2m20	2m40	2m60	2m80	3m00	以降 10cm 刻み

- (3) 第1位決定のバーの上げ下げは、走高跳で2cm、棒高跳では5cmとする。天候その他の条件によって、変更する場合は当該審判長が決定する。

男子やり投の予選通過記録 50m00

## 8. 競技場内への入退場について

- (1) 競技場への入退場は全て、競技役員の手配により行う。競技者以外はトラック・フィールドに立ち入ることはできない。
- (2) トラック競技における競技者は、第2ゲートから退場し、メインスタンド前は通らない。  
\*バックストレートフィニッシュの場合、ゴール後はそのままトラックを進み、第1ゲートより退場して、競技場玄関前を通り、第2ゲートより入場してスタート地点に戻る。(バックスタンドは通らない)
- (3) フィールド競技における競技者は、当該競技役員・マーシャルの指示に従い退場する。
- (4) 選手同士の密を避けるため、選手への付き添い等は行わない。

## 9. 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具は全て、主催者が用意したものを使用する。ただし、棒高跳用ポールは個人所有のものを使用する。ポールについては、その競技開始前に跳躍場で跳躍審判員の検査を受け、許可されたものを使用できる。(やりも個人所有のものを認める。ただし、TICにて競技開始1時間前迄に検定を受けること。)
- (2) フィールド競技で、助走に使用するマーカーは主催者が用意する。使用し終わったら、競技者自身で取り外し、所定の場所に返納すること。(マーカーの数は既定の数を超えないこと。)
- (3) 競技で使用する滑り止め(炭酸マグネシウム等)は各自で用意すること。競技場では用意しない。

## 10. 競技用靴について

- (1) 競技場は全天候型舗装であり、スパイクピンの数は11本以内で、長さは9mm以内とする。走高跳とやり役では12mm以内とする。
- (2) トラック種目で、厚底シューズ(ソール厚25mmを超える物)を使用する場合は、スタート前に出発係に申し出ること、申し出の無い場合には記録が公認されない場合がある。

## 11. 表彰について

- (1) 各種目の選手権獲得者には、賞状と選手権賞を授与する。
- (2) 各種目1位のみ表彰を行い、2位から8位までの入賞者には賞状を授与する。(エントランスホールより自ら持ち帰る)
- (3) 表彰式は、当該競技終了後、直ちに行う。

## 12. 応急処置について

大会期間中に競技場で発生した傷害や疾病は、主競技場内の医務室で応急処置を行うが、その後の責任は負わない。

### 13. コロナウィルス感染拡大の防止にあたり、次の項目を遵守すること。

- (1) 本競技会は、コロナウィルス感染拡大防止の観点より、無観客での開催とする。
- (2) 来場者は所定の体調管理チェックシートを大会総務まで提出すること。(チームの場合はまとめて提出)  
(競技会一週間前から記入し、受付時に団体単位で提出する。用紙は札幌陸協 HP よりダウンロードして使用)
- (3) 各団体代表者は所属選手の健康状態の把握に努め、異常がある場合は直ちに対応し、主催者に報告すること  
※主催者の指定する待機場所を使用すること。
- (4) 体調がよくない場合には自主的に参加を見合わせること。
- (5) 同居家族や知人に感染が疑われる方がいる場合には自主的に参加を見合わせること。
- (6) 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地方な等への渡航または当該在住者との濃厚な接触者がある場合は自主的に参加を見合わせること。
- (7) 必ずマスクを持参すること。(運動時以外はマスクを着用すること)
- (8) こまめな手洗いや洗顔などを実施すること。(主催者が石けんを設置する)
- (9) 用具(砲丸 ハンマー やりなど)使用後は手洗いまたはスプレーで除菌をすること。
- (10) ウォーミングアップは個別に行い、「密」をつくらぬよう心掛けること。
- (11) 運動中、痰やつばを吐くことは極力行わないこと。また、ゴミはすべて持ち帰ること。
- (12) どの場面においても、他の競技者、競技役員との距離をできるだけ確保すること。
- (13) 大きな声での会話や応援はしないこと。
- (14) 各チームは待機場所のスペースにゆとりを持たせるよう努め、できる限り密を避けること。
- (15) テントを使用するチームは密閉状態にならないように留意し、換気を心がけること。(雨天時でも 30 分には換気すること)
- (16) 飲食については周囲の人となるべく距離をとって、対面を避け、会話を控えること。
- (17) タオルの共用、ドリンクの回し飲みはしないこと。
- (18) 団体代表者は、選手の競技場滞在時間が短くなるよう配慮すること。
- (19) 競技会終了後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無などを報告すること。
- (20) 感染予防のために主催者が決めた他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと。
- (21) 大会主催者は競技会に関わる全ての人の感染に対するいかなる責任も負わない。

### 14. 開門及び本競技場開放時間について

- (1) 各駐車場 6:00開門
- (2) 本競技場・補助競技場 6:30開門  
(無観客で行うため開門ゲートは第1ゲート・第2ゲートのみとする。)  
※3密を避けるため開門するまでゲートの前には集まらないこと。  
※お願い 開門後、会場設営を行うので、顧問の皆様のご協力をお願いします。
- (3) 本競技場開放時間  
1日目 9月12日(土) 7:00~8:15  
2日目 9月13日(日) 7:00~8:30

### 15. その他

- (1) 競技場内には規定外の商社名・商品名を付けたスパイク袋またはバックを持ち入れてはいけない。
- (2) 競技の進行上、競技開始時刻が変更になる場合があるので、放送に注意すること。
- (3) トラブル防止のため、競技場スタンドに撮影禁止区間を設ける。(撮影禁止区間および撮影を制限する時間帯はプログラムを参照すること)
- (4) テント設置の場合は本競技場敷地内または、補助競技場内とし、公園内には設置しないこと。設置の際各自・各チームで責任を持って、突風でテントが飛ばされたり、倒れたりしないように、確実にロープ等で固定すること。また、映像装置のカメラ付近への設置はしない。(会場図参考)  
※競技1日目終了後、希望するチームにはテントをバックスタンド下のダッグアウトにて保管することができる。但し、自己責任にて保管すること。

- (5) ゴミの始末については、各自・各チームで責任を持って行い、競技場にはいっさい捨てないこと。
- (6) 各団体責任者は、【85.札幌選手権 競技会前／提出用】体調管理チェックシートをまとめて、速やかに大会担当総務員（金子）へ提出すること。